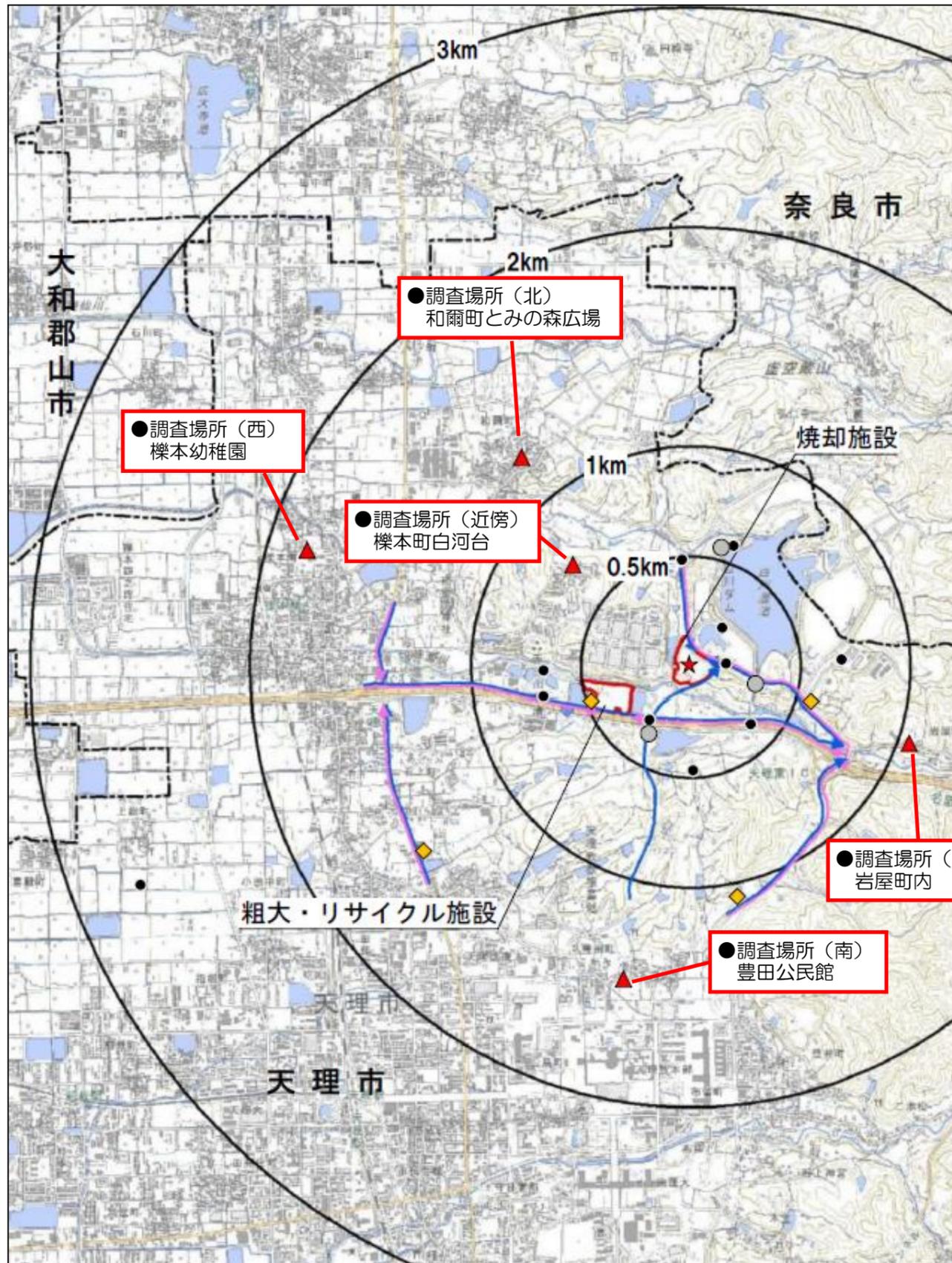


大気質・景観等の調査地点と調査期間



凡例	環境要素	調査地点	調査項目・調査期間	回数
	対象事業実施区域			
	一般環境大気質、地上気象、上昇気象調査地点	焼却施設予定地	二酸化窒素 浮遊粒子状物質 二酸化硫黄 ダイオキシン類	1週間連続測定を4季 各1回
	一般環境大気質調査地点	5地点	その他有害物質: 4季 ・塩化水素・水銀: 24時間×7検体 ・その他の有害物質: 24時間×1検体 粉じん等 ・降下ばいじん: 1カ月連続を4季	各1回 各1回
	道路沿道大気質、道路交通騒音、道路交通振動、交通量調査地点	5地点	道路交通騒音 交通量	平日・休日各1日(24時間)
	景観調査地点	10地点	主要な眺望景観の状況を4季	各1回
	人と自然との触れ合い活動の場調査地点	2地点	主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用状況及び利用環境を1季(春季)	平日・休日各1回
	ごみ収集車等走行ルート(焼却施設)			
	不燃・リサイクルごみ収集車等走行ルート(粗大・リサイクル施設)			

環境影響評価の選定項目(大気質)

項目	環境影響要因	検討結果	選定する理由及び選定しない理由
大気質	二酸化窒素	○	工事用車両の運行、施設の稼働及び廃棄物搬入車両の運行により、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質が発生し、周辺的生活環境に影響を及ぼす可能性があることから選定する。
	浮遊粒子状物質		
	二酸化硫黄	○	施設の稼働により、二酸化硫黄が発生し、周辺的生活環境に影響を及ぼす可能性があることから選定する。
	粉じん等	○	工事用車両の運行、切土工等、建設機械の稼働及び廃棄物の搬入に用いる車両により粉じん等が発生し、周辺的生活環境に影響を及ぼす可能性があることから選定する。
	ダイオキシン類	○	施設の稼働により、ダイオキシン類及びその他有害物質が発生し、周辺的生活環境に影響を及ぼす可能性があることから選定する。
	その他有害物質		

大気質の調査地点の決め方

地上気象及び上層気象については、煙突の設置される焼却施設建設予定地 1 地点を調査地点とする。

一般環境大気質及び粉じん等については、平成 28 年の奈良地方気象台での風向風速観測で、南北方向の風の発生頻度が多い結果であった一方で、平成 14 年度の天理市火葬場整備事業に係る環境影響事前調査業務では、豊田公民館前での調査で東方向からの風の発生頻度が多い結果であったことを考慮し、対象事業実施区域内 1 地点、対象事業実施区域の東西南北方向各 1 地点及び近隣住宅街 1 地点を調査地点とする。

水環境・動植物・騒音・土壌等の調査地点と調査期間



凡例	環境要素	調査地点	調査期間	回数
○	対象事業実施区域	—	—	—
⋯	動植物調査範囲 (半径200m)	—	4季 昆虫類は3季 陸産貝類は2季	各1回
▲	猛禽類調査地点	2地点	2月～8月 (3日連続/月)	2営業期
●	魚類・底生動物調査地点	4地点	4季	各1回
◆	環境騒音、環境振動、 低周波音調査地点	5地点	平日・休日	各1日 24時間
●	水質調査地点	4地点	平水 生活環境項目 : 4季 健康項目 : 2季	各1回
●	水質調査地点 (底質含む)	4地点	降雨 降雨時	2回
○	悪臭調査地点	—	夏季	1回
◆	土壌汚染調査地点	2地点	・焼却施設予定地 ・粗大・リサイクル 施設 予定地	1回

環境影響評価の選定項目 (水質)

項目	環境影響要因	検討結果	選定する理由及び選定しない理由
水質	切土工等	○	切土工等により、水の濁りが発生し、周辺的生活環境に影響を及ぼす可能性があることから選定する。
	水の濁り	×	プラント排水は原則、循環再利用とし、再利用しきれない余剰分については、生活排水とともに下水道に排水することから、非選定とした。
	雨水の排水	○	雨水の排水により、水の濁りが発生し、周辺の水域に影響を及ぼす可能性があることから選定する。
水の汚れ	施設の稼働	×	プラント排水は原則、循環再利用とし、再利用しきれない余剰分については、生活排水とともに下水道に排水することから、非選定とした。

●水質の調査

水質調査は対象事業実施区域周辺の水域における平水時及び降雨時の水質や底質の状況を文献その他の資料調査に加え現地調査により把握する。

●水質の調査地点の決め方

対象事業実施区域に降る雨水が流入する高瀬川及び櫛川の流入前後の4地点及び近傍のため池(上三ツ池、櫛本大池、原谷池、七辻上池)4地点を調査地点とする。また、底質については、対象事業実施区域近傍のため池(上三ツ池、櫛本大池、原谷池、七辻上池)4地点を調査地点とする。

環境要素	調査項目		
水質	平水時	生活環境項目	8項目
		健康項目	27項目
		ダイオキシン類	
	降雨時	流量	
		浮遊物質質量(SS)	
		濁度	
底質	流量		
	土壌環境基準項目	29項目	
	ダイオキシン類		

環境影響評価では、切土工等や雨水排水による「水の濁り」のみ評価の対象としていますが、左表のとおり、水質の調査を施設稼働前に行い、施設稼働後も継続して行うことによって施設稼働による環境変化の比較を行います。